

# 淡水 ワムシの培養 図解説明

## 備考 ケースについて

両ケースとも 1リットル以上入るもので フタのあるもの、ワムシネット (7×7cm) (どちらか一方のケース) が出し入れできるもの、両ケースは 約同じ容量が入れば、同じ形でなくてもOKです。

セット場所は 直射日光は避け、できれば 照明も当たらない所がベスト。冬場や あまり暖かくない場所に置く場合は、ケースの底に敷いて温める ピタリ適温がおすすです。

**PS・培養水中に直接ヒーターをいれて 温める事はできません。**

## 備考 培養水の作り方

淡水ワムシ用培養水とは、淡水ワムシを培養するための水です。

培養水は 塩素中和剤を使用した水道水で 25から30度ぐらいの水温が良いでしょう。

**必ず塩素中和剤を使用した水道水をご使用ください。**

自然の川の水や水槽の飼育水は培養水には向きません。中に微生物 (バクテリア等) がいるからです。微生物は、ワムシの増殖を阻害することがあります。

また 浄水器などで作られたRO水も培養には向かない場合が報告されています。

**必ずそのままの水道水に塩素中和剤を入れて ご使用ください。**

## ①セットします

**手順①** ケースを二つ用意します。AケースとBケースとします。

両ケースはおおむね同量が入れば、左図のように、同型でなくてもOKです。

Aをワムシを増やす専用ケースとし、

Bを増えたワムシのストックケースと位置づけます。ワムシを使う場合はBケースからのみ 使用するようにします。

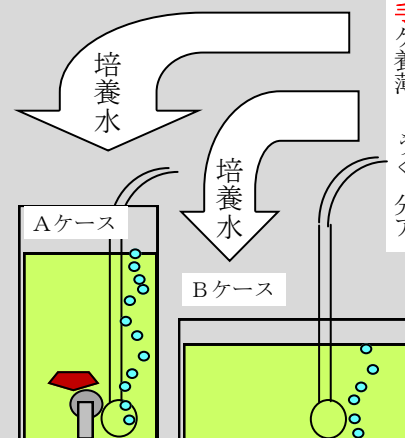
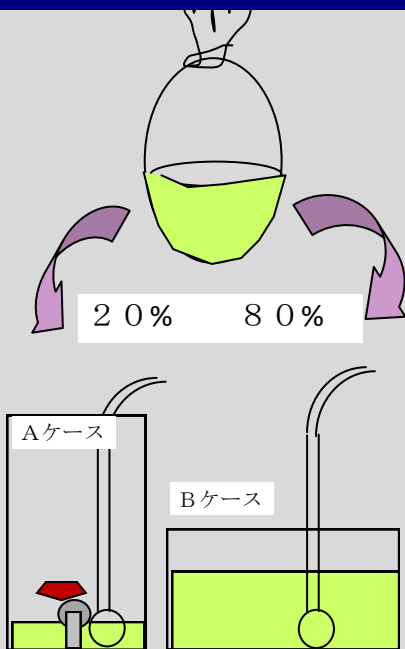
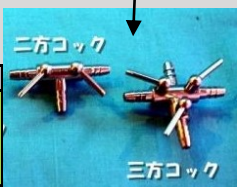
買ったワムシを 図のようにAケースに 約2割

Bケースに約8割ぐらゐに入れ分けます。

**手順②** 両ケースとも ケースの8分目まで、培養水を加えて、ワムシを薄めます。

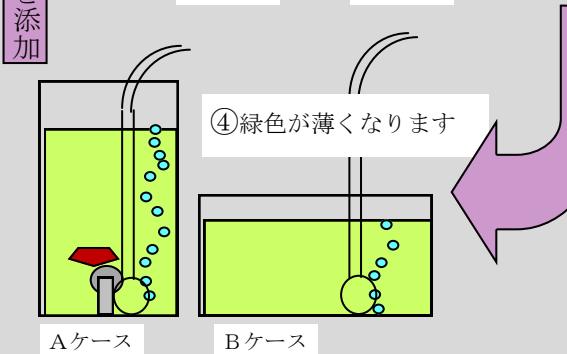
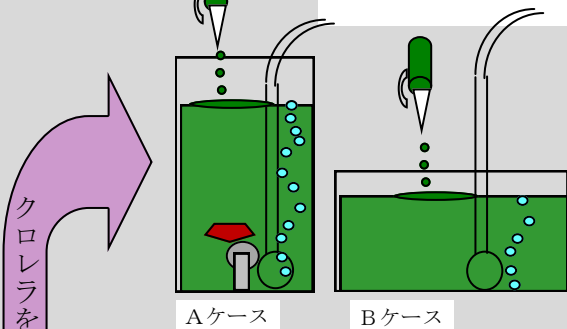
水面が泡立たないように、エアレーションを弱くかけます。

分岐コックを使うと、エアの調整が簡単です。



## ②培養します

**手順③** 両ケースにクロレラを添加します。緑色が強くなります



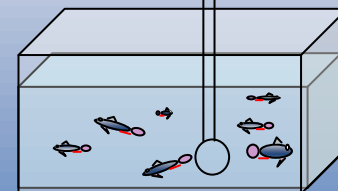
**手順⑤** 手順③と④を数日～2週間繰り返す

**手順⑥** 手順⑤の間 Bケースのワムシは、ワムシネットで掬って、稚魚や稚エビに与えてください。

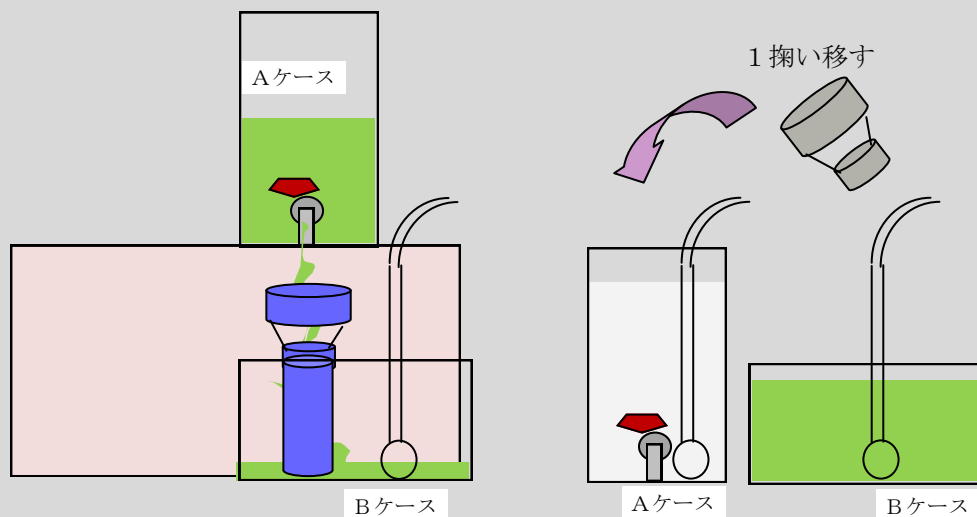
その間 Aケースのワムシはどんどん増えていき、約1～2週間で 飽和状態 (これ以上増えると酸欠になりワムシが死滅し始める状態「100個体以上/1cc」) になります。

そうなる前に、裏の図 **手順⑦** のセット替えを行います。

ワムシを与える



### ③セット替えをします



**手順⑦** Bケースを空（残っているワムシは処分する）にしきれいに洗浄します。

AケースのワムシをBケースに移します。

その際、Aケースの壁面等の汚れが入らないようにできるだけ丁寧に行います。

上図のように、コック付のケース等使用して、台の上などに静かに置き、

ワムシごみ取りネットをくぐらせ移すと、汚れがBケースに入りにくく移すことができます。

**手順⑧** 空になったAケースをきれいに洗浄し、新しく培養水を入れます。

Bケースから、Aケースに、ワムシネットでワムシをひと掬い移します。

以下、**手順③**からの培養を繰り返します。

### 備考 クロレラの与える量について

クロレラは一日以内で食べ尽くせる（緑が薄くなる）量を与えるのがポイントです。多すぎますと培養水の水質悪化に、少なすぎると餌不足でうまく増えません。

一日でワムシがクロレラを食べ尽くす量とは、今現在のワムシ数によりますからハッキリとした事はいえません。当初 セット後 培養水1リットルあたり 3～6滴与えて見て下さい。そしてどれくらいの時間で培養水の緑色が薄くなるか をチェックします。

通常AケースよりBケースのほうがワムシ濃度が高いので Bケースに 少し多めに添加します。

添加した結果 半日で緑が薄くなれば、本来その2倍のクロレラを入れても1日で薄くなるはずです。クロレラの添加量は このように調整します。

特にAケースのワムシは 使わず増やすだけなので どんどん増えていきます。それに伴い、クロレラの加える量も増やして与えていくのもポイントです。

### 備考 ワムシの濃度のチェック方法 及び 稚魚に与える量について

ワムシの濃度を見るのに、右の写真 ワムシ観察キットがおすすめです。

100個体/1ccを超えると ワムシの飽和状態となります。

また 稚魚のケース内には、15～30個体/1cc の濃度になるよう ワムシを与えるのが 望ましいです。



### 備考 ワムシの保温について

ワムシは低水温（25度以下）ではあまり増えません。また直接ヒーターをいれても 増えません。ヒーターの横を通過しただけで 熱によりワムシが死ぬからです。

冬場の保温には 右の写真 ピタリ適温が お勧めです。

ピタリ適温はケースの下に敷いて温めます。

